

性別によるアンコンシャス・バイアスに関する学習教材（小学生向け）の活用事例

目標

アンコンシャス・バイアス（＝無意識の思い込み。以下、「アンコン」という。）について理解し、アンコンによって自身の可能性を狭めることなく、一人ひとりが何事にも前向きに行動できるようにする。

活用の流れ

	学習活動	指導上の留意点	資料・準備物等
導入	1 啓発資料から、アンコンについて理解する。 2 ねらいを確認する。 アンコンを知ろう！気づこう！ ～アンコンすごろくにトライ～	<ul style="list-style-type: none"> 啓発資料のイラスト例や解説を用いて、アンコンについて説明する。 アンコンは誰にでもあることや、それに気づくことで、自分の可能性が広がることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 啓発資料(小)
展開	3 「アンコンすごろく」をすることで、アンコンに気づく。 (1)動画を視聴し、「アンコンすごろく」の内容やルールを確認する。 (2)グループになり、「アンコンすごろく」をする。 4 「アンコンすごろく」から、気づいたことをまとめる。 (1)ステップ1について、個人で考える。 (2)ステップ2について、グループで話し合い、その後、全体で共有する。	<ul style="list-style-type: none"> コマに書いてある言葉をとおして、アンコンについて考えることが目的であることを確認する。 他の人の意見を否定せず傾聴する点をおさえる。 自分の意見がうまく言葉にできない場合には、無理に意見を伝えなくてもよいことを伝える。 考えがまとまらない児童には、これまでの生活場面を想起させたり、他の人の意見を参考にさせたりする。 机間指導の際、児童の意見を確認し、全体の多様な意見が共有できるよう、意図的に指名する。 	<ul style="list-style-type: none"> 啓発資料(小) 動画視聴機器(タブレット等) 啓発資料(小) サイコロ1個 すごろくの駒又は消しゴム(人数分) 啓発資料(小) 啓発資料(小) タブレット モニター
振り返り	5 学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> アンコンにとらわれることなく、自分の可能性を信じて、やりたいことに挑戦していくことの大切さを伝える。 	

活用場面例

【各教科等】

・特別活動

学級活動(1) 学級や学校における生活づくりへの参画

学級活動(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

・人権週間の活用資料として

など

【家庭等との連携】

・長期休業中の課題（ステップ3の実施）として

・学年保護者会及び個人懇談の啓発資料として

など